

「阪急阪神ホールディングスグループ サステナビリティ宣言」の概要は次のとおりです。

① サステナビリティ宣言（基本方針）

～暮らしを支える「安心・快適」、暮らしを彩る「夢・感動」を、未来へ～
 私たちは、100年以上積み重ねてきた「まちづくり」・「ひとづくり」を未来へつなぎ、
 地球環境をはじめとする社会課題の解決に主体的に関わりながら、
 すべての人々が豊かさ喜びを実感でき、
 次世代が夢を持って成長できる社会の実現に貢献します。

② サステナブル経営の重要テーマ（マテリアリティ）と取組例



具体的な取組の方向性

事故の撲滅と安全性の更なる向上、防災・減災に向けた取組の推進、災害発生時の適切な対応、安心で快適な施設・サービスの充実 など

取組例

【バリアフリーへの取組】
 ・グループの鉄道各社では、全てのお客様が駅や電車を快適にご利用できるよう、ハード・ソフト両面でのバリアフリー化を推し進めている。



「サービス介助士」資格の取得促進



具体的な取組の方向性

良質な住環境の整備、人の交流を生み出す商業・ビジネスエリアの整備・拡大、女性・子育て世代・高齢者・外国人のニーズに応えるサービスの提供、地域コミュニティ等との連携強化 など

取組例

【阪急電鉄 西宮北口駅周辺のまちづくり】
 ・2008年「阪急西宮ガーデンズ」を開業したほか、周辺に文化・教育施設を誘致し、エリアの価値向上に取り組んでいる。西宮北口は、関西の「住んでみたい街アンケート」において6年連続1位の評価を受けている。



阪急西宮ガーデンズ



具体的な取組の方向性

自然との調和・地域の活性化・多様な価値観の受け入れ・次世代の育成などにつながる商品・サービスの提案、スポーツやエンタテインメントを通じた文化の創造と普及、ICTイノベーションの促進 など

取組例

【阪急阪神のあんしんサービス「ミマモルメ」】
 ・校門に設置したセンサーとICタグが連動して、子ども達の登下校の状況をご家庭等にアプリやメールでお知らせするサービス。この仕組みを活用して、高齢者を含めたまちの見守りサービス「まちなかミマモルメ」も展開している。



ランドセルに入れるICタグ



具体的な取組の方向性

働きがいの向上・労働環境の整備、健康経営やダイバーシティの推進、人権の尊重・ハラスメントの防止、次世代の育成の機会の提供 など

取組例

【健康宣言に基づきグループを挙げて取り組む健康経営】
 ・当社グループとして19社が健康経営優良法人2022の認定を受けている。内訳は、大規模法人部門10社（うち3社はホワイト500）、中小企業法人部門9社。



2022 健康経営優良法人 Health and productivity ホワイト500



具体的な取組の方向性

温室効果ガスの排出量の削減、省エネの推進、再生可能エネルギーの活用、環境配慮型建物の拡大、廃棄物発生抑制・リサイクルの推進 など

取組例

【環境配慮型建物に関する認証取得の推進】
 ・環境・社会への配慮がなされた不動産に対して付与される認証の取得を推進している。（例：大阪梅田ツインタワーズ・サウスは「DBJ Green Building認証」で最高評価（5つ星）を取得）



DBJ Green Building 2021



具体的な取組の方向性

企業統治の実効性・透明性の向上、コンプライアンス・腐敗防止の徹底、気候変動リスクを含めたリスクマネジメントの強化、各ステークホルダーの意見を踏まえた事業遂行 など

取組例

・2020年6月に、取締役会の監査機能をより強化し、コーポレートガバナンスのさらなる充実を図ることを目的として、監査等委員会設置会社に移行している。
 ・2022年3月に、「腐敗行為（贈収賄等）の防止に関する基本方針」を定め、その防止に取り組んでいる。

サステナビリティ宣言の詳細は、当社コーポレートサイトでご紹介しています。

<https://www.hankyu-hanshin.co.jp/sustainability/>